

●平成 29 年度 JCOMM プロジェクト賞

産官学民の連携・協働による、地域にふさわしい、住民目線で身の丈にあった
持続可能なおでかけ交通「ぐるっと生瀬」の運行とまちづくり

「ぐるっと生瀬」運行協議会
猪井博登（大阪大学大学院工学研究科）
山室良徳（中央復建コンサルタンツ株式会社）
阪急タクシー株式会社
西宮市
国土交通省神戸運輸監理部兵庫陸運部
国土交通省近畿運輸局

兵庫県西宮市の生瀬地域は、市域北東部の山間部に位置し、古くからの集落を囲むように山を切り開いて造成された新興住宅地が複数点在している。これらの地域は、急勾配でかつ狭隘な道路が多く、移動は専ら自家用車に依存するというライフスタイルとなっていた。また、川を挟んだ各地区のコミュニティや交通事情等が異なっていた。さらに、昨今の少子高齢化の進展による高齢者の増加や人口減少などに起因した地域課題、特に移動面での課題が顕在化していた。

このような状況のもと、地域の将来に危機感を持った一部の住民が、平成 21 年に実施したボランティア輸送がきっかけとなり、産官学民との協働のもとコミュニティ交通の運行に向けた地元協議会を立ち上げた。協議会では、アンケート調査や試験運行、地域での座談会を繰り返しながら、最終的には、9 自治会と老人クラブ、社会福祉協議会による取り組みに発展した。そして、「①高齢者をはじめ、誰もが気軽に利用できる移動手段の確保」、「②新たなコミュニティの醸成や地域の活性化」を目的として、地域が主体となり、持続可能な地域公共交通として平成 27 年 10 月からコミュニティ交通「ぐるっと生瀬」の本格運行へと結びついた。

運行開始後も、広告付き会報の定期発行や SNS を活用した PR、自治会ごとの座談会、マスコットキャラクター作製、保育所・幼稚園・小中学校での MM、地域の各種イベントでの PR や支援、空家対策など精力的に取り組んでいる。

このような地域の取り組みにより、コミバスの周知が図られ運行初年度の収支比率は約 90% と高く、さらに 2 年目以降である現在も利用者は増加し続け、その収支比率は、3 年目の目標としている 100% に迫る勢いである。

一方、地域に目を向けると、高齢者の運転免許返納数の増加やコミバスの運行時刻にあわせての外出など、ライフスタイルの変化がみられるようになった。さらに、地域の諸団体からは、地域を盛り上げるためのイベント等への協力依頼が増えるなど、地域に認められる存在となってきている。

今後も、地域と産官学民が一丸となり、「ひと」や「まち」をつなぐ取り組みとして、引き続き事業の推進に努めていきたい。

—JCOMM 実行委員会から—

地域における地道な取り組みであるが、自治会・関係者が協働して継続的に取り組みを行っていること、その結果として着実な効果を上げていることが評価され、また、このような身の丈に合った取り組みを着実に実行プロジェクトを展開することが他地域でも期待できることから、JCOMM プロジェクト賞として選定されました。